

法人名	公益財団法人 大阪府国際交流財団
作成（所管課）	府民文化部 都市魅力創造局 国際課

○ 経営目標設定の考え方

ミッション

○大阪の国際競争力の強化

2023（令和5）年度からの中期経営計画に基づき、外国人の受入促進や活動環境の整備、国際交流情報の収集及び発信、大阪の国際競争力の強化等を図る。

■大阪府の施策

- ・国際化施策の充実

基本方針

1 外国人相談機能の専門性向上

外国人が言葉の壁に困ることなく、安全・安心に暮らせるように、生活や災害に関する情報提供・相談対応について、より外国人に寄り添えるよう質的向上をめざす

2 災害時における迅速な情報発信の強化

防災に関する情報提供を行うとともに、災害発生時には迅速な情報発信に努める
起こり得る災害に備えるため、地震・津波の発生に加え、近年頻発する気象災害などを想定した研修・訓練を実施する

3 万博関連事業の取組み

大阪・関西万博との連携・協力を通じて、外国人が安全・安心に暮らせる国際都市大阪の実現に向けた貢献をめざす

4 多文化共生の拠点機能の強化・充実

地域に根差した外国人支援を進めるため、府内の市町村や国際交流協会と連携するとともに、情報提供や人材育成等をサポートし、信頼される拠点機関としての機能強化をめざす
国や大阪府の各部局、府内の多文化共生施策を担う官民の機関との連携強化をめざす

5 事業基盤の強化

安定的な資産運用、外部資金の獲得などに努め、さらなる財政基盤の強化をめざす

戦略目標と成果測定指標【中期経営計画上の目標値】

① 外国人相談機能の専門性向上

- ・専門相談会の実施回数
【48回(R4実績)→60回(R9)】
- ・地域での合同・出張相談会の実施回数
【12回(R4実績)→12回(R9)】
- ・外国人情報コーナーの相談件数
【2,927件(R4実績)→2,800件(R9)】

② 災害時における迅速な情報発信の強化

- ・災害時対応研修・訓練等の実施回数
【3回(R4実績)→5回(R9)】

③ 多文化共生の拠点機能の強化・充実

- ・相談員研修の実施回数
【2回(R4実績)→3回(R9)】
- ・「やさしい日本語」関係研修等の実施回数
【4回(R4実績)→4回(R9)】
- ・コミュニティ通訳ボランティア研修の実施回数
【1回(R4実績)→2回(R9)】
- ・ホームページ（SNS含む）アクセス数

④ 財政基盤の強化

- ・実質収支差額
（評価損益等調整前当期経常増減額より、特定資産取崩額を除く）
【△33百万円(R4実績)→△32百万円(R9)】
- ・留学生会館入居率（年平均）
【82.0%(R4実績)→85.0%(R9)】

法人名	公益財団法人 大阪府国際交流財団
-----	------------------

Ⅱ. 設立目的と事業内容の適合性(事業効果、業績、CS)

戦略目標	成果測定指標	新規	単位	R6 ウエイト	R5 実績値	R6 目標値	R6 実績値 〔見込値〕	R7 目標値	R7 ウエイト	中期経営計画 (R5～R9)		R7目標設定の考え方 (数値の根拠) ※累積数値による目標設定の場合 は、その理由も記載	戦略目標達成のための活動事項
										R7 目標値	最終年度 目標値		
① 外国人相談機能の専門性向上	地域での合同・出張相談会の実施回数		回	10	12	12	12	12	10	12	12	中期経営計画(R5～R9)の目標に基づく	・地域ニーズの把握や相談ツールの多様化、専門相談の充実など相談会の質の向上に取り組む。
	外国人情報コーナーの相談件数		件	5	2,079	2,800	2,822	↓ 2,800	5	2,800	2,800	中期経営計画(R5～R9)の目標に基づく	・府内在住の外国人住民に対して、在留手続き、雇用、医療、福祉、出産、子育て、教育などの生活に係る適切な情報や相談場所に迅速に到達することができるよう、多様なツールを活用し、情報提供および相談を多言語で行うワンストップ型の相談窓口の運営を引き続き行う。
② 災害時における迅速な情報発信の強化	災害時対応研修・訓練等の実施回数		回	10	4	4	4	4	10	4	5	中期経営計画(R5～R9)の目標に基づく	・災害時多言語支援センターの設置マニュアルの確認・改訂 ・多様な災害を意識し、府内市町村や国際交流協会等との共同研修や訓練、また近畿地域国際化協会連絡協議会等との連携による研修・訓練の実施・参画
③ 多文化共生の拠点機能の強化・充実	相談員研修の実施回数		回	5	3	3	3	3	5	3	3	中期経営計画(R5～R9)の目標に基づく	・出入国在留管理局など国の関係機関や社会福祉協議会、大阪弁護士会等の地域の関係機関との連携を強化し、研修内容の充実と高度化を図る。
	「やさしい日本語」関係研修等の実施回数		回	10	4	4	4	4	10	4	4	中期経営計画(R5～R9)の目標に基づく	・企業向けの研修や、テーマを定め対象を明確にした研修を設定し、積極的な広報を通じて参加を促す。 ・他団体の実施するやさしい日本語研修への参加を通じ、財団職員のやさしい日本語に係る知見・能力の向上を図る。
	コミュニティ通訳ボランティア研修の実施回数		回	10	2	2	2	2	10	2	2	中期経営計画(R5～R9)の目標に基づく	・社会経済情勢の変化や地域のニーズに応じて、コミュニティ通訳として語学ボランティアが活躍できるよう研修の充実を図る。
	ホームページアクセス数		件	5	74,980	120,000	× 47,596	—	—	120,000	120,000	—	—
	ホームページ(SNS含む)アクセス数	☆	件	—	(102,676)	—	(83,788)	120,000	5	—	—	ホームページアクセス数の中期経営計画(R5～R9)の目標と同値の120,000件を目標とする OFIX運用SNSアカウント Facebook: osakafoundation X: @OFIX_JP YouTube: @ofix_jp Note: ofix.jp	・ホームページや多様なSNSを通じ、平時から気象災害を含む防災情報の発信や、新着情報などこまめな情報更新に努める。 ・「よくある生活質問集」「大阪生活必携」等の記載内容の充実を図るなど、ホームページの魅力の向上に努める。 ・SNSを通じてホームページにも誘導するなど、SNSを含めた総合的な周知・広報の方策を検討、実施する

Ⅲ. 健全性・採算性(財務)、コスト抑制と経営資源の有効活用・自立性の向上(効率性)

④ 財政基盤の強化	実質収支差額(評価損益等調整前当期経常増減額より、特定資産取崩額を除く)		百万円	10	△ 30	△ 38	〔△ 37〕	△ 36	10	△ 36	△ 32	中期経営計画(R5～R9)の目標に基づく	・歴史ある地域国際化協会としての信頼を基に、国や他の公益法人等からの支援を獲得するとともに、事業を通じて存在感を高め、民間(企業)からの支援につなげる ・基本財産を維持しつつ、金利動向を見ながら、より有利で安全な資産運用に努める
	留学生会館入居率(年平均)		%	5	79.9	85.0	× 74.6	85.0	5	85.0	85.0	中期経営計画(R5～R9)の目標に基づく	・大阪府堺留学生会館オリオン寮を管理・運営していくとともに、収入の増加を図る ・施設は当面維持し、必要最低限の維持補修や備品の更新を実施し、入居率を維持する

【凡例】

- ・☆はR7年度からの新規項目
- ・×は目標値未達成
- ・↓は前年度実績比マイナスの目標値
- ・〔 〕内の数値は、参考として記入した実績見込値
- ・()内の数値は、当該年度の経営目標として設定していないため、参考として記入した実績値

法人名

公益財団法人 大阪府国際交流財団

C S 調査の実施概要

○令和6年度の実施結果

調査内容	実施方法	アンケート等対象者	対象者数	実施時期
グローバル人材の育成の基本事業である外国人サポーター派遣事業について、OFIXが提供する内容への満足度を調査	アンケート方式	外国人サポーターを活用して国際理解教育を実施する学校（教員）と実際に授業を受講した児童・生徒	77団体（実績）	各事業終了後

実施結果の主な内容	実施結果を踏まえた取組
令和6年度に外国人サポーターを活用して国際理解教育を実施した学校（教員）と実際に授業を受講した児童・生徒を対象に実施したアンケートの結果、「大変満足」「満足」と回答したものが、92%であった。	（結果を踏まえ実施した取組） ・目標90%に対して実施結果92%となっており、今年度も目標達成となった。ただ、アンケートにおいて「やや不満」「不満」との回答の中には、「原則として同年度・同生徒に2回以上授業を行わない」という事業そのものの内容ではなく、事業の運用に不満があったため、一部教員が低評価をつけたものがあった。これは、同事業の、「偏りなく、幅広く府内で学ぶ児童・生徒に、外国への関心と様々な国についての理解の促進を図る」という趣旨の説明不足が考えられることから、事業実施要綱を修正し、趣旨を明記することとした。 （今後実施予定の取組） ・引き続き、事業趣旨について各学校に周知すると共に、内容の企画にあたっては申込校のニーズを極力汲み取り、事業全体の魅力向上に取り組む。 ・対面授業をベースとした臨場感のある国際理解教育を行い、実施校（教員）と児童・生徒を対象にアンケートを実施し、「大変満足」「満足」との回答の合計について、令和6年度同様の90%以上をめざす。

○令和7年度の実施方針

調査内容	実施方法	アンケート等対象者	対象者数	実施時期
国際理解教育サポーター派遣事業を、「多文化共生」の事業と位置づけ、OFIXが提供する内容への満足度を調査	アンケート方式	外国人サポーターを活用して国際理解教育を実施する学校（教員）と実際に授業を受講した児童・生徒	90団体	各事業終了後

■ 目標値未達成の要因について

法人名	公益財団法人 大阪府国際交流財団
-----	------------------

〔 1 〕

成果測定指標	単位	R 6 年度目標値	R 6 年度実績値	目標値との差
ホームページアクセス数	件	120,000	47,596	△72,404

未達成の要因				要因分析（要因と考える根拠）						要因分析を踏まえた今後の対応
①	ホームページの仕様変更、SNSを通じた情報発信の増加			・ホームページをリニューアルしたことで、それまでブックマークからアクセスしていたリピーターユーザーが容易にアクセスしづらくなり、一時的にアクセス数が減ってしまっていると考えられる。 ・世界的に年々SNS利用者数が増加している状況に鑑み、タイムリーな情報はSNSに多く掲載していたことで、ホームページの新着情報掲載頻度が想定よりも下回った。 ・ユーザーの情報獲得源がこれまで以上にSNSに流れており、SNSの閲覧数は36,192件と昨年度より増加している。						・リニューアルしたホームページの、更なる魅力と情報検索力を維持し、訪問者にリピーターとなってもらえるよう努める。 ・新着情報の更新について、写真を工夫しインパクトのある内容となるよう努める。また、SNSにおいては、新着情報の掲載頻度を高め、よりタイムリーに情報発信する。 ・SNSを通じてホームページにも誘導するなど、SNSを含めた総合的な周知・広報の方策を検討、実施していく。
	関連項目名	新着情報の掲載件数	単位	件	R6当初想定値	100	R6実績値	73	差	△ 27

法人名

公益財団法人 大阪府国際交流財団

■ 成果測定指標変更(廃止)希望の理由について

〔1〕

●変更前

R6年度の 成果測定指標	単位	R6年度の 目標値
ホームページアクセス数	件	120,000

●変更後

R7年度の 成果測定指標	単位	R7年度の 目標値
ホームページ（SNS含む） アクセス数	件	120,000

成果測定指標の 変更(廃止)を 希望する理由	令和5年度末に実施したホームページのリニューアルの目的の一つは、新着情報等の発信において、ユーザーがアクセスしやすいスマホ等のモバイル端末とも親和性の高いSNS(特にX、Facebook)との連動を意識し、電子メディア総体で「OFIX」のプレゼンスを高め、ユーザーが必要な情報に容易にアクセスできる機会を増やすことにあった。 加えて、当初指標を設置した令和4年度から、人々のインターネット利用状況が激変し、昨今は、日本だけでなく海外においてもホームページよりもSNSから情報を取得しているユーザーが増えている。 イベント情報など、ニーズの変化に細やかに対応する動的情報はSNSが効果的であり、頻繁な更新等の法人の負担と、環境変化を踏まえた効果に鑑み、ホームページ単体のアクセス数のみを指標に設定するのではなく、SNSを含めた指標として設定することが合理的であると考え。よって、情報提供及び広報手段の実績として、ホームページとSNSを合わせた総アクセス数をカウントすることとし、今年度よりこの成果測定指標に変更したい。
------------------------------	---

〔2〕

●変更前

R6年度の 成果測定指標	単位	R6年度の 目標値

●変更後

R7年度の 成果測定指標	単位	R7年度の 目標値

成果測定指標の 変更(廃止)を 希望する理由	
------------------------------	--